

ビーチクリーン&カヌー運搬実証 海没地区で開催



トビイカ、ミンシュ
ントビイカ発見

第3回のビーチクリーンは、10/4(月)、10:00～11:30、晴れ間が広がり海風もやや強く、潮の流れも早く感じられる状況でした。今回は、カーミージー側のゲートからカヌーも運び入れて、海浜の漂着ごみ類を回収しました。干潮時ですが北寄りの風もあり、安全を優先して現地でカヌー体験を実施しているNEOSのスタッフにカヌーによるごみ類の運搬をお願いしました。今年は台風による影響も少なく、時期的に海岸に打ち寄せる漂着ごみ類はまだ少ないようです。これから本格的な北風が吹く冬場のシーズンに向け海浜の状態を確認しながらの清掃作業となりました。当日の参加者は13名、しかたに自然案内、笹尾商工・NEOS、港川自治会、浦添市(環境保全課、美らまち推進課)の皆さんです。ご協力ありがとうございました。

◆漂着ごみの回収・カヌー運搬作業の様子



中間地点からは3艇のカヌーで運搬



向かい風、干潮時の浅瀬でのカヌーは体力を消耗



カーミージー側のゲートから作業開始



テントも活用

軽トラに積み込まれたごみ類

仮置場の漂着ごみ類



回収ごみ類は、3艇のカヌーで運搬

西海岸地域のビーチクリーン、特に海没地区はキャンプキンザーの敷地内であることから立ち入り制限があり、カヌー体験も含め事前に許可申請をして活動を進めています。何度も足を踏み入れて見ると約1kmの海岸線にはゴロゴロとした岩や壊れたコンクリート片が散乱していますが、干潮時に広大な細粒の砂浜が姿を現します。那覇港港湾計画で位置づけられている、カーミージー沖の海域保全ゾーンと一体化した海没地区は、西海岸地域の里浜づくりとして今後取組んでいきたいと思ひます。

今回は漂着海ごみの回収とカヌー艇での運搬方法について、検証しました。海面の潮位、海流の速度、風向、海域のルート取り、カヌー艇で運搬する回収ごみ類の設置方法等、実施においてはチェックリストを作成して条件を把握しておく必要があります。また、風向きの変化に応じてカヌーの漕ぎ手も体力も消耗、浅瀬の岩礁にも注意して航行する技量も必要です。季節によって、当日の気象変化に対応することから安全に実施できる運行計画を十分練っておくことも課題として挙げられます。

回収したごみ類一覧

単位:kg(ごみ袋数)

燃えるごみ	燃えないごみ	その他袋に入らないごみ
<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック類 (ペットボトル等) ・漁具ロープ ・発泡スチロール ・ビニールカバー 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス片 ・鉄片、鉄缶類 ・アルミ缶類 ・陶器類 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・金属バット①、木の棒② ・BBQコンロ台鉄筋フレーム① ・球状ブイ②、プラかご① ・FRP筒①、ゴムシート片⑤ ・鉄板①、漁具網片① 等
43.0 (11)	25.0(5)	18.0
86.0 (16)		

※ごみ袋容量及び目視での計量

次回は、11/4(木)、9:30～11:00、海没地区

第4回の作業区域も同様に、海没地区(カーミージー橋中間からカーミージー側)を予定します。また、カヌーによる海岸線の運搬方法を実施します。安全を優先して現場の状況、海上における気象条件等を留意して、カヌーの運搬方法を計画します。なお、当日は干潮12:33、潮位43cm、30分開始時間を早めて開催します。ご協力よろしくお祈いします。